【会議名】

令和6(2024)年度第3回三鷹市男女平等参画審議会

【開催日時】

令和6(2024)年11月5日(火) 午後6時30分～8時

【開催場所】

三鷹市教育センター3階 大研修室(オンライン併用)

【次第】

1 開会

2 議事

- (1) 第2回審議会の振り返り(いただいたご意見、質疑への回答)
- (2) 「男女及び多様な性の平等参画のための三鷹市行動計画2027(仮称)」の素案について

【出席委員】(敬称略)

荻田 香苗(会長)、福島 多恵子、今村 佳代子、牧野 洋子、大黒 暉生、中川 由紀子、田中 かず子、南 和宏 以上8名

【市職員】

企画部長 石坂 和也、企画部DX推進担当部長 丸山 真明
(事務局)

企画経営課副主幹 中塚 大、企画経営課平和・人権・国際化推進係 山際 陽子、堀江 富美

【傍聴者】

4名

【議事概要】

(次第1 開会あいさつ 省略)

(開催方法の説明等 省略)

【中塚企画経営課副主幹】 本日の資料についてご確認をお願いいたします。次第のほか
に次の資料をご用意しております。資料の1番、令和6(2024)年度第2回男女平等参画審
議会概要版会議メモ、資料の2番、「男女及び多様な性の平等参画のための三鷹市行動計
画2027(仮称)」の策定に向けた考え方について、こちらは確定版の資料となっております。
資料の3番、「男女及び多様な性の平等参画のための三鷹市行動計画2027(仮称)」素案の案

になっております。資料の4番、前計画との比較シート（事業一覧）です。資料の5番、目標指標の案。そのほか、令和6（2024）年度第1回三鷹市男女平等参画審議会議事録、続いて第2回の議事録、そして委員名簿、会場出席者の方には席次表も別途お配りをしておりません。

不足がある場合には、事務局の職員にお声がけください。

本日の会議終了予定時刻ですが、午後8時となっております。皆様、スムーズな進行にご協力をお願いいたします。

事務局からは以上です。

【荏田会長】 それでは、次第の2、議事に入りたいと思います。まずは、第2回審議会の振り返りです。事務局からご説明をお願いいたします。

【丸山企画部DX推進担当部長】 企画経営課の丸山です。資料1に沿って、ご説明させていただきたいと思います。こちらは前回、第2回審議会の振り返りになります。資料の中段、意見・質問・要対応事項と書かれた欄以下が、前回審議会でいただいたご意見と市の考え方になります。事前にお目を通しいただいているかもしれませんが、主なものについてご説明させていただきます。

まず、議事（1）は、第1回審議会の振り返りについての議事で行いました。記載している1点目、女性交流室のあり方等の検討の仕方や期間に対するご意見をいただいたところでございます。市といたしましては、あり方等の検討については、本審議会や庁内協議の場で検討していくこととし、すぐに実行できるものと今年度に策定する計画に盛り込み対応していくものの二本立てで検討を進めていきたいと考えています。

次に、議事（2）は、計画策定に向けた考え方についての議題で行いました。1点目、2点目は、性の多様性に係る職員研修に関するご意見で行いました。市の対応としましては、ご指摘の点を踏まえて受講方法等を検討するほか、職員向けガイドブックの作成を市のホームページで公開することといたします。

3点目と4点目は表現の修正に関するご意見で行いました。資料2の4、5ページをお開きください。ご意見への対応といたしまして、黄色のマーカー部分のように修正を行いましたので、ご確認いただければと思います。

資料1にお戻りください。2ページの上から3行目、こちらはデジタル技術の活用として、三鷹市ホームページでAIを活用するというご意見で行いました。資料には、現時点では困難とございますが、議事録作成に当たり再確認したところ、今後のホームページリニュー

アルの中で検討を深めていく、と市の職員は発言をしておりますので、そのように対応をしていきたいと考えております。

上から4行目、こちらは市の重点施策が分かるようにして欲しいというご意見でございました。こちらについては、計画素案の作成に当たり、重点施策が分かるように対応しております。詳細は、次の議事の素案の説明の中で触れます。

以上が前回の主なご意見とその対応になりますが、再び資料2をご覧ください。先ほどもご説明しましたとおり、前回（第2回）の審議会でのご意見を踏まえて再度修正を行い、市で確定し、その後、9月に市議会にて報告したものでございます。修正箇所は、先ほどの4、5ページ以外に、黄色の網かけ、マーカーをした部分となっておりますので、全体的にもご確認いただければと思います。

【荻田会長】 ただいま、事務局からご説明がありましたが、ご質問などはいかがでしょう。A委員、お願いいたします。

【A委員】 小さな間違いだと思いますが、資料2のスケジュールのところ、第3回は10月になっていますが、今日は11月なので11月に訂正したほうが良いのではないかと思います。

【荻田会長】 そうですね。

【A委員】 市の回答をもう少し説明して欲しいので、質問させていただきます。

一番初めのところで、素案検討までの期間が短か過ぎるから、次回の計画期間である4年間できちんと構想を立てたら良いのではないかと私が発言をして、それに対して二本立てで行くとおっしゃってくださったので、よかったと思ったんですが、今の説明を聞くと今できる内容と、もう一つは、新計画期間で検討する内容とは新計画期間に検討するというのではなくて、そこに今から素案で反映されたものとしてということですか。4年間で次はどういうものにしていこうか検討していくと思っていたんですけども、次回の基本計画の中に反映されたものとしてやっていくということですか。今の説明の中では、基本計画の中に反映されるはずみたいな感じで、どう対応していただけるのか明確にご説明いただけるとうれしいです。

【石坂企画部長】 先ほど、今度の計画への反映に関わることで話が出たのですが、資料3の29、30ページです。女性交流室を知らない人が多い現状があって、例えばここでイベントをやるという形で認知度を上げていく、ということが53番に書いてあります。

一方で、29ページの52番では、女性交流センターの機能の充実に向けた検討としておりま

す。これについては、この計画期間で、要は利用率の向上等に向けて検討していきましようという方向性を書いているわけです。ですので、先ほど申し上げた2つの側面があります。今できることは何か、そして、計画期間で検討していくことをきちんと入れたというのが今の話です。

【A委員】 計画の中に入れたのは良かったのですが、担当が企画経営課になっており、庁内で検討していくとなっています。でも、庁内で検討しても私は無理だと思います。今社会がどんどん変わっていて、20年前の男女共同参画条例というのはかなり劣化しているので、バージョンアップをしていかなければいけません。それをどのようにしていくのか庁内で検討するのは、結構無理があると私は思います。市民検討会議のような形でいろいろな人の意見を聞きながら、どうバージョンアップをしたら良いかと知見を集めてからの考察でないと、付け加えるみたいな形で終わってしまうのではないですか。男女平等参画に対して、性の多様性というのが入ってきたので、それを付け加えたという感じで、その整合性がすごく危ぶまれている状況です。20年前は、男女二元論の仕組みで考えればよかったけれども、今はそれでは無理です。これから10年、20年と使える条例にしていくためには、かなり抜本的な考察・検討が必要です。そのためには、検討会議のような形の仕組みを作ってそこで練っていく必要があると思います。その辺りも確認したいと思います。

【石坂企画部長】 そうですね。まさにそれを議論するのがこの男女平等参画審議会であると思います。

【A委員】 では、私はそう主張したいです。

【丸山企画部DX推進担当部長】 29ページの表の上の重点的な取組の2段落目は、施設のあり方について女性交流室の登録団体の声を聞きながら、この審議会等での議論を深めて検討していくと記載しております。

【A委員】 登録団体が何団体あるかご存じですか。

【丸山企画部DX推進担当部長】 10団体です。

【A委員】 そうですよ。全然（声を）代表していないし、ジェンダー平等や性の多様性に関して知見が積み上がっているとは思いません。

10団体の中で、私が2団体の代表をしているので、本当に狭いです。昔は何十という団体がありましたが、今は非常に少なくなっていることを考えると、登録団体の皆さんにご意見を聞いてというので充分だとは思えません。10年、特にこの5年で世の中はすごく変わっているので、それをキャッチアップしていかなければいけません。

【丸山企画部DX推進担当部長】 もちろん、この審議会等で審議していく上では資料や情報が必要だと思いますので、我々も先進的な取組を行っている自治体の事例等を調査して、皆様にご紹介しながらどうあるべきかとの計画期間の中で検討していきたいと思えます。

【石坂企画部長】 審議会ですらいろいろと意見を交わしながら、どうなったら良くなるか議論していきたいという思いは持っています。

【A委員】 そうであれば、もう一つ付け加えたいのですが、この審議会ですら議論はできない、議論をしていません。説明があつて、それに対して質問し、答弁があるという形で終わっています。ここでは議論をするスペースがないので、審議会のあり方自体も問題になっています。

【丸山企画部DX推進担当部長】 そうですね。これまで人権条例や個別計画の策定といった議論が多かつたので、ご指摘のような、説明に対する質問に回答することが多かつたと思えます。以前、多文化共生センター（仮称）の策定に向けてワークショップをやつたことがありましたので、女性交流センターのことを考えるときには、説明に質問という形ではなく、ワークショップ形式のような形でいろいろな意見を出す機会を作るといった方法もあると思えます。その時々、折々で進行方法も事務局で工夫したいと思えます。

【石坂企画部長】 他に、委員の方からの提案制度もあるという話を差上げたことがありましたが、それについても、審議会の中で皆さんの合意を得ながら、提案していただいた方に説明していただき、意見をいただくという方法もあると思えます。

【A委員】 審議会の中で時間を取ることができるのですか。

【石坂企画部長】 制度として作っていますから、できます。メンバーも替わっていますから、例えば次回の審議会ですら改めて制度をご報告し、計画の中でこれを使ってやっていきましょうというやり方もなくはないかと思えます。

審議会の委員の方がテーマを設定して、それについて話し合ひましょうという制度をうまく使いながら、審議会の中でどうやるのかは、当然正副会長にも相談すべき案件でもありませんから、そういった提案があつた場合に、どう活性化していくかというのは、私どもも同じ課題認識を持っています。

【A委員】 この時間内にその枠を取るとのことですか。

【石坂企画部長】 そうです。

【A委員】 1時間半の間で、大丈夫ですか。

【B委員】 前回か前々回に申し上げましたが、法律が2つ大きく変わりました。審議会委員の私たちだけの意見は、正直たかが知れています。三鷹市に住む女性の困りごとや悩みなど市民のニーズを踏まえて、と書いてありますが、それをリサーチする場がないということが問題だという話を私は申し上げました。この審議会の議論を1時間半やって、それに答えて終わりということではいけないと申し上げたつもりです。

今までは、先ほどA委員がおっしゃられたとおり、男女という枠や女性の差別など、課題が非常にシンプルなところで我々は運動してきておりますけれども、今後は何度も言いますが、将来を見越したバックキャストで施策をやっていかないと、全部が後手後手の施策になっていくと思います。

もう少し市民の生活レベルの、子育てをしている人、介護をしている人、働いている人などいろいろな市民の方の声を聞く場を持つべきだと申し上げたかったのです。それは、絶対に不可欠だと私は思います。

今までは、女性が集まって女性同士が交流する場があればいいという行政の視点があったから、名前も女性交流室なんだと思います。しかし、もう女性交流室なんて恥ずかしくて表に出せません。課題が複雑化しているので、それをいろいろな施策や行政のサービスに繋げていくためには、もっときめ細かなリサーチをしていかなければいけないということです。ぜひそういう場を設けてください。女性登録団体だけの意見を聞くなんて、10年前の行政文書みたいです。もう少し真面目に女性たちの現状を把握するという姿勢が私は大事だと思います。

【石坂企画部長】 そうですね。前回、B委員から「こころの相談」を何で知ったかといったようなお話があり、そこはきちんとリサーチをしていく必要があると思っています。ただ、そういった女性の方の声を聞くためにまた別の検討委員会を作るという話ではないと思っています。

【B委員】 はい。それはないと思います。

【石坂企画部長】 例えばプレママ講座とかという形で私たちが出向いて行って、時間をもらって話を聞くなどの形で積極的に他部課と連携しながら多くの女性の方々がどう思っているのかを聞きたいと思っています。例えばこの間、啓発誌で「名もなき家事」を特集しましたがけれども、そういったことでどう思っているのかと聞きながら施策に生かしていくというようなアウトリーチを最近やっていますけれども、待ちの姿勢ではなく、そういった視点を持って取り組んでいく必要があると思っています。

【B委員】 (資料に記載されている) 女性センターという定義もないですね。

【A委員】 そうですね。女性センターとは何ですか。

【丸山企画部DX推進担当部長】 センターとか女性交流室というのは、条例で設置している施設で、名称は女性交流室なんですけど、センター機能というのはまた別で言われており、要は中身の問題だと思います。そこは、おっしゃるとおり、市民意見、今の時代ですとオンラインでアンケート等も取りやすくなっておりますので、そういった機会等も検討して、次回この素案に反映できるように我々も議論したいと思います。

【荻田会長】 では、次に進みます。

資料3をご覧ください。「男女及び多様な性の平等参画のための三鷹市行動計画2027 (仮称)」素案の案をお配りしております。事務局から説明をお願いいたします。

【丸山企画部DX推進担当部長】 お手元に資料3から5をご準備のうえ、初めに資料3をお手元にご用意ください。

本日は、皆様のご意見等を参考にしながら、市で確定しました先ほどの資料2の計画の策定に向けた考え方を踏まえまして、資料3のとおり、「男女及び多様な性の平等参画のための三鷹市行動計画2027 (仮称)」素案の案を作成いたしましたので、その内容についてご説明させていただきます。

なお、この「男女及び多様な性の平等参画のための三鷹市行動計画2027 (仮称)」につきましても、これ以降、新計画と呼ばさせていただきます。

初めに、目次をご覧ください。新計画は、基本的には前計画を踏襲する形で、第1編の総論と第2編の各論で構成しております。総論は、計画策定の背景、前計画の達成状況、計画策定の考え方、基本理念、計画の目標及び主要課題、計画の体系の5部構成としています。各論については、前回の審議会までにご議論いただきました目標1から4の体系ごとに、現状と課題や重点的な取組、具体的に取組を進める事業を記載しております。

それでは、中身をご説明させていただきます。1ページ、総論の第1部は計画策定の背景を記載しておりまして、1番では経過として、三鷹市では1981年の女性問題懇談会の発足に始まりまして、計画策定や条例制定などを経て、市全体で男女平等参画社会の実現に向けた事業等に取り組んできたことのほか、男女平等参画における現状や課題を記載しています。

2ページの番号2では、国及び東京都の動向として、前計画期間中に成立や改正等があった関連する法律の内容を中心にまとめています。(1)から(3)は法改正、(4)(5)は新法の成立となっております。特記事項としては、(4) 困難女性支援法につきまして、令

和6年4月に施行されて、市町村に困難な問題を抱える女性への支援のための施策の実施に関する基本的な計画の策定が努力義務とされましたので、困難女性支援法に基づく計画を本計画に兼ねることとしております。

3ページをご覧ください。第2部は、前計画の達成状況になります。冒頭に、指標による達成状況を表形式でお示ししております。

4ページからは、前計画の6つの目標ごとに、前計画期間中の取組実績や目標指標に対する達成状況を記載しています。

番号1の男女平等参画のまちづくりの推進では、様々な手法による普及啓発活動や人権を尊重するまち三鷹条例の制定、三鷹市パートナーシップ宣誓制度の創設などに取り組んだことを記載しているほか、各分野における男女の地位が平等になっていると思う人の割合は、いずれの分野においても目標値を下回る現状であったことを記載しております。

番号2の相談体制の充実では、ニーズに合った相談体制を整備するため、令和3年7月から男性向け相談を開始したほか、令和4年度からは養育費確保支援事業の一環として、男女平等参画相談員による法律相談を活用した相談を開始したことなどを記載しております。

番号3、人権の尊重とあらゆる暴力の根絶につきましては誤字がありまして、「人権を」と書いてありますが「人権の」に修正していただければと思います。こちらでは、令和6年3月に人権を尊重するまち三鷹条例を制定したこと、市職員向けに多様な性に関する研修を実施し、ほとんどの正職員が受講を終了したことのほか、DV被害者支援やハラスメント防止に向けた取組を推進したことなどを記載しております。

5ページ中程の番号4、ライフ・ワーク・バランスと女性の活躍の推進では、家庭と仕事の調和の取れた社会や多様な働き方の実現に向けて、普及啓発活動に取り組んだことや、市の率先行動として育児休業取得の推進を図ったこと、女性の就業支援や創業支援に取り組んだことを記載しているほか、指標目標を達成したことを記載しております。

6ページをご覧くださいまして、番号5、あらゆる分野、世代における男女平等参画を支える社会づくりでは、市の行政委員会、審議会等における女性委員の割合の目標指標は達成できなかったことを述べつつ、男女平等参画の視点に立った防災活動の取組や、プレコンセプションケアをはじめとした男女の生涯を通じた健康支援への取組を推進したことなどを記載しております。

7ページの6番、推進体制の整備では、庁内横断的に男女平等参画施策を推進したことのほか、女性交流室の利便性向上に向けて取り組んだものの、利用実績は低く、女性交流室の

機能充実が課題となっていることを明示しております。

8 ページをご覧ください。第3部は、計画策定の考え方になります。1番には、計画の目的として、本計画は三鷹市男女平等参画条例に基づいて策定する計画であり、男女及び多様な性の平等参画に係る施策を推進していくための行動計画であることを記載しております。

2番、計画の性格として、各法律に基づく法定計画に当たる旨などを記載しております。

最後の3番には、計画期間を記載しております。

9 ページをご覧ください。第4部は基本理念、計画の目標及び主要施策になります。こちらに「主要課題」と書いてありますが、ここは「主要施策」のほうが好ましいということで、次回以降修正いたします。ここでは、人権を尊重するまち三鷹条例及び三鷹市男女平等参画条例の理念等を基本としつつ、本計画における3つの基本理念を明示するとともに、4つの目標と主要施策を一覧化しております。

なお、資料の記載は「主要課題」となっておりますが、今後「主要施策」に修正していきます。

10ページをご覧ください。第5部は計画の体系で、4つの目標と11の施策、55の事業を表形式によって体系化しております。

なお、次の11ページに文言で記載がありますとおり、前計画における事業数は95件でございましたが、新計画では55件と数としては減少しております。これは、目標を達成して経常的な事業として既に定着している事業については本計画には位置づけず、経常業務として取組を推進することとしたほか、事業の整理、統合を行うこととしたため、件数が減ったものでございます。詳細については、資料4をご覧くださいと思います。A3の青と緑の横の資料になります。

左側の青色の部分が前計画、右側の緑色の部分が新計画の体系になります。体系については、6の目標から4の目標にというのは前回までに議論したところでございます。統合や移行、削除したものについては、左側の青い表の右側のほうの対応と新計画ナンバーという列があります。そちらの欄で確認することができますので、ご覧いただければと思います。例えば、一番上の白抜きの1行目の1番に統合、1、2、3と書いてあります。これは、新計画の1番、2番、3番に統合したという意味です。その下の2行目は1番に移行したとご参照いただきたいと思います。

なお、新設した事業につきましては、例えば右側の緑色の表の6番には事業名の後に【NEW!】という表記をしております。【NEW!】がついたものが新計画から載せた新規事業と

見ていただければと思います。

資料3にお戻りいただきまして、12ページからは、第2編の各論になります。体系に沿って、施策と事業を4つの目標ごとに記載しております。主な点を中心にご説明させていただきたいと思います。

目標1の施策の1点目は、人権尊重の視点に立った男女共同参画意識の啓発になります。記載している項目は、初めに施策に関する現状と課題、その後に重点的な取組、表形式で記載している事業概要、この3項目をそれぞれ記載しております、これ以降のほかの施策も同様の記載になっております。

なお、重点的な取組については、前回審議会でいただいたご意見も踏まえつつ、各施策において重点的に取り組む事業の方向性を明確にして、濃淡をつけているところがございます。

12ページの施策1点目、人権尊重の視点に立った男女平等参画意識の啓発では、アンコンシャス・バイアスの解消のほか、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツなど、人権尊重を基本に据え、男女平等参画社会の実現に向けて取り組んでいく必要があることなどを課題としてまとめております。また、下段の重点的な取組として、令和6年4月に施行した人権を尊重するまち三鷹条例に基づき、男女平等参画施策を推進するとともに、SNSなど多様な手法により情報提供を行うほか、人権としての性を尊重する意識の醸成に向けて、発達段階に応じた性教育を推進することとしております。

13、14ページには事業概要を表形式で記載しておりますが、特に6番をご覧ください。人権施策と連動した啓発事業の実施は、新計画からの新規事業となります。人権を尊重するまち三鷹条例の制定を一つの契機といたしまして、多様な取組によってあらゆる年代の方に向けて人権を尊重する意識醸成を図ってまいります。

15ページをご覧ください。目標1、施策の2点目は、男女平等参画のための相談体制の充実になります。カウンセラーや各関係課と連携を図ることで、きめ細かな相談対応ができるよう努めるとともに、重点的な取組といたしまして、男女平等参画相談員制度について制度の趣旨を明確にし、広く利用されるよう周知を図るほか、支援を必要とする方が各種相談窓口スムーズにたどり着けるよう、利用しやすい相談体制を目指した取組を推進いたします。

16ページをご覧ください。施策の3点目は、多様な性の尊重と暮らしやすいまちづくりの推進になります。令和5年6月にいわゆるLGBT理解増進法が制定されましたが、性のあ

り方に対する周囲の無理解や偏見などによって、悩みや生きづらさを感じている方もいらっしゃると思います。そうした中、市では三鷹市パートナーシップ宣誓手続条例を制定したことを現状として述べております。また、人権を尊重するまち三鷹条例や三鷹市パートナーシップ宣誓手続条例の理念を踏まえ、多様な性の尊重に向けた普及啓発に取り組むほか、職員研修の拡充やガイドラインの作成など、市の率先した取組や固定的な価値観、先入観を見直すための理解を促進していくことを重点的な取組としております。

事業概要については、表の16番と17ページの19番、こちらの2点が新規事業となっております。

18ページをお開きください。目標2、ライフ・ワーク・バランスの実現と女性の活躍への支援についてご説明いたします。施策の1点目は、(1) ライフ・ワーク・バランスの推進に向けた意識啓発になります。いまだ固定的な性別役割分担意識が根強い現状となっていることから、一人一人の意識を変え、男性が家事、育児、介護等を行うことへの社会的理解を広めていく必要があることを課題として記載しております。また、重点的な取組については、引き続きライフ・ワーク・バランスを推進するとともに、男性が主体的に育児や子育てに参加するような環境整備をしていくこととしております。

19ページの表の22、こちらでは家事分担に対するマインドチェンジにつながる情報提供の充実として、女性に負担が偏っていると言われる名もなき家事、トイレトペーパーを替えたり洗剤を入れ替えたりというような名もなき家事への認知度向上など、男性の家事参加のヒントとなるような事例を紹介することとしています。

表の下、施策の2点目は、働きやすく、働きがいのある環境づくりになります。女性の年齢層別労働力率については、20代で上昇した後に出産、育児期に落ち込み、再び上がることからM字カーブと呼ばれて、近年ではM字カーブの谷が解消されつつありますが、女性の就業環境はいまだ厳しく、性差は大きい状況にあることなどを課題として記載しております。重点的な取組といたしましては、市内事業者のハラスメント対策等の情報提供や啓発に取り組むほか、女性の就労や再就職、企業等の支援など、働きやすく働きがいのある環境づくりを進めていくこととしております。

20ページの下段をご覧ください。施策の3点目は、ライフ・ワーク・バランスの実現に向けた市の率先行動になります。現状と課題として、働き方改革に関するこれまでの市の取組などをまとめているほか、女性活躍のさらなる推進に向けて生活と仕事の両立を前提とした計画的育成やキャリア形成支援などを進めていく、また、働きやすく、働きがいのある環

境づくりの推進を重点的な取組としております。

22ページの中段、施策の4点目は、様々な分野における男女平等参画の推進になります。市の行政委員会、審議会等の女性比率は目標に届かず、いまだ低いこと。防災の分野では、女性視点に立った取組により、地域全体の防災力向上を図っていく必要があること。健康分野では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツが重要な視点となることなどを現状と課題としてまとめております。そうした課題を克服するため、行政委員会、審議会等における男女比率の均衡に向けた取組のほか、防災分野では男女平等参画の視点からの避難所運営の検討、健康分野ではプレコンセプションケアの考え方に基づく多様な啓発活動や、妊娠期から出産期までの切れ目のない支援などを重点的な取組としております。

25ページをご覧ください。ここからは、目標3の安全、安心な暮らしの実現になります。施策の1点目は、配偶者等からの暴力、性暴力、ストーカー等の防止と被害者の支援になります。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、DVに関する相談件数の増加や、独り親世帯における生活困窮の深刻化といった社会的課題が顕在化したこと。また、DVが起きている家庭では、子どもに対するケアや虐待防止の対策も一体として強化していく必要があること。そのほか、ストーカー行為や性暴力といった暴力行為は、男女平等参画を阻害する大きな社会問題であり、特に近年ではオンラインによるサイバー性被害の増加も問題となっていることなどを現状と課題としてまとめております。重点的な取組としては、プレコンセプションケアの普及啓発に取り組むとともに、DVや児童虐待の未然防止、早期発見に努めるほか、子ども家庭支援ネットワークや地域福祉コーディネーターとの連携など、さらなる重層的な支援とネットワーク強化によって被害者支援に取り組むこととしております。

27ページをご覧ください。施策の2点目は、困難な問題を抱える女性への支援になります。このセクションは、先ほどご説明いたしました困難女性支援法に基づく、三鷹市困難女性支援基本計画（仮称）に該当する部分にもなります。市では、これまでひとり親世帯や生活困窮世帯、DV等で苦しむ女性に寄り添った相談対応や生活支援を行ってまいりました。しかし、自ら支援を求めることができない方も多いため、民間機関と連携し、アウトリーチなどによる多層的な支援の必要性が高まっていることなどを現状と課題として取りまとめております。また、困難女性支援法に基づき、民間団体と共同での支援体制のネットワーク整備に取り組むとともに、相談員の一層の能力向上や体制強化に向けた研修等を実施すること、こちらを重点的な取組としております。

28ページの表をご覧ください。こちらの4点は全て新規事業となっております。重点的な

取組のとおり、困難な問題を抱える女性への支援に関する周知啓発や、関係機関や民間団体との連携、協働による支援をはじめとしたきめ細かな支援のほか、職員の専門性を高める取組を推進してまいります。

29ページをご覧ください。ここからは、目標4、推進体制の整備・充実でございます。施策の1点目は、女性センター機能の充実、活性化になります。利用登録団体数や施設の認知度が低く、女性センター機能の充実に向けて市民ニーズを踏まえた抜本的な転換を図る時期を迎えていることを現状と課題として記載しております。また、重点的な取組といたしまして、三鷹駅前再開発事業の中で設置いたします多文化共生センター（仮称）について、女性交流室の機能を発展的に踏襲しながら、男女平等参画の推進拠点としてどのような方向性で充実化を図っていくべきか検討を進めるほか、女性交流室についてはセンター機能の充実化を図るため、施設のあり方について利用者の声を聞きながら、本審議会等での議論を深めて施設の活性化に向けた取組について検討していくこととしています。

30ページ、施策の2点目は、計画の進捗状況の管理と評価になります。男女及び多様な性の平等参画社会の実現に当たっては、市民及び事業者等との協働が不可欠であるとともに、行政の幅広い分野にまたがるため、総合的、横断的に施策を推進することが重要であることを課題として掲げつつ、施策を総合的に推進するため、庁内連絡会議を通じて情報収集を行うとともに、目標指標の達成状況を把握しながら取組を推進するほか、本審議会への報告、本審議会での評価をはじめ、定期的な点検を行うなど、チェック機能の強化に重点的に取り組み、実効性のある計画になるよう努めていくこととしております。

最後に資料5をご覧ください。A4横の資料になります。新計画における目標指標の案をお示ししたのになります。前計画の目標指標のうち、表の中段部分の灰色の行に記載しているライフ・ワーク・バランスという言葉を見聞きしたことのある人の割合、こちらについては社会的にも浸透して、目標達成を既に行っていることから削除するほか、ピンク色の部分の番号5から7の3つを新たに設定したいと考えております。

新計画の素案の案のご説明は以上になります。今後、本日の議論を参考に修正を行うとともに、データやグラフを盛り込んでいく予定です。また、語句の文言等の注釈や前計画にありました関連法令の参考資料などについては次回の審議会までに追加をして、この素案の案をブラッシュアップしていきたいと考えております。

私からの説明は以上になります。

【荻田会長】 ただいま、事務局からご説明がりましたが、ご質問などはいかがでしょ

うか。

【C委員】 目標指標の6番ですが、性別等による不利益を受けたことがある、見たことがある市民の割合を目標値として減らしていきたいということだと思いますが、単純に、見たことがある人はなかなか減っていかないのではないかと思います。この問いでは、一度受けた、見たという人は常にイエスと答えるとする、なかなか減少に向かわないのかと単純に思いました。対象は無作為に抽出されているのですよね。対象が変わるので、絶対に減らないとは限りませんし、ではどういう設問が良いかは分からないのですが、何となくこれは難しいと思いました。

【丸山企画部DX推進担当部長】 資料5の6番を見ていただきますと、一番右側に備考欄があり、こちらは第5次三鷹市基本計画の中で既に目標指標として設定しているものがございます。以前にもご紹介しましたが、そこから横引きしております。4年に1回、計画を策定する前に実施している市民満足度調査により、無作為に調査票を送ってご意見をいただいているので、聞き方を留意しながら、前回からどれだけ変わってきたかを目標指標として見ていきたいと思えます。

【C委員】 よろしくお願ひいたします。

【荻田会長】 ほかにいかがでしょうか。D委員、お願ひいたします。

【D委員】 私も資料5の目標指標に質問があります。男女の地位が平等になっていると思う人の割合の対象となる場所が家庭とか職場と分かれています、例えば社会全体という三鷹市をはるかに超える広範囲なので、三鷹市が頑張っても届かない目標になるので、そうなるのは望ましいとは分かりますが、我々の目標としては適切ではないのではないかと考えたのですが、いかがでしょうか。

例えば、「職場」も、三鷹市の中の職場ということであれば、我々の施策の効果の影響が現れやすいのではないかと思います。三鷹市はベッドタウンで、実際の職場は都心や三鷹市外であるという人がおそらく大多数かと思えます。今回のこの施策がそこまで及ばずばらしいとは思いますが、目標として入れるのはなかなか厳しいのではないかと思います。

【石坂企画部長】 これは、前回、C委員から、例えば学校教育の中でというのはどう測っているのかと聞かれました。「学校教育の中で」というのは、学校の生徒・児童や教員に聞けば良いのですが、実際は不特定多数の市民の人に聞いているのです。ですので、全体の傾向として、経年で捉えたとき、例えば計画の3ページには2つしか書いていませんが、どういった傾向にあるか、市民として社会全体でどう感じているかなという感覚的なところ

かと思えます。ですから、ここに一喜一憂というか、下がったからいい、上がったから駄目だということではなくて、将来的にどのような状態が望ましいのかというトレンドを見ていくというのがこの指標であると思っています。この施策をしたからこれが下がるとかではなくて、全体の施策を行うことによってこの数値をどのように改善させていくのかといった傾向として見ていただく方が良いと思いました。

【D委員】 参考情報ということであれば良いと思いますが、目標値としてしっかり数字が出ているので、これが達成できたとかできないということはあまり三鷹市の目標指標として、今言われた一喜一憂しないということかと思いました。

【石坂企画部長】 数値目標を掲げて、それに向かって改善に取り組んでいくという方向性としてご理解いただきたいと思えます。なかなか難しいというのは、D委員のおっしゃるとおりだと思います。

【D委員】 ありがとうございます。承知いたしました。

【荻田会長】 ほかに、いかがでしょうか。ご意見、ご質問などありましたら、挙手をお願いいたします。

【B委員】 そもそも論で申し訳ないですが、設定する目標は、ガラガラポンして新しくしても良いのですか。もちろん、経年変化は必要なので、例えば市の管理職の女性の割合や女性委員の比率は必須だと思います。この数値は市民満足度調査から引っ張ってくるのですか。それとも、個別にWebアンケートを取って測るのですか。

【石坂企画部長】 過去の例では、個別に調査していましたが、10年ほど前から計画毎に調査をするのではなく、市民満足度調査に収れんして客観的に測っていくことにシフトチェンジしました。では、それだけなのかというと、そうではないというのが私の理解で、例えば定量的に測っていく他のアンケートもあります。そういうものを指標として見ていくのもあると思えます。ただ、男女平等参画のためにまた別に、何かアンケートをするというのは、今の段階では考えにくいと思えます。客観的にデータとして取れる数字があれば、置き換えることも可能だと思っています。

【丸山企画部DX推進担当部長】 補足しますと、この表の1番、5番、6番が市民満足度調査から得ているものです。2番、3番、4番、7番は実績値です。

【B委員】 目標を設定するということは、やはり施策を推進するための目標ですよね。正直、例えば7番の関連事業の利用者、参加者数を目標にすることに関して、この施策が当たった、外れたというのは、イベントごとに判断すればいいのであって、この全体の計画の

目標にするというものではないと思います。

【石坂企画部長】 いわゆる定量的な評価と定性的な評価とがあり、7番はいわゆる定量的な評価で、参加者数というのも一つのメルクマールになるだろうと思います。

【B委員】 だから、それは絶対取るべきですよ。

【石坂企画部長】 はい。ただ、定性的な評価で効果をどう出すかという、やはり満足度調査に今の段階では依拠すべきだろうと思います。今までもそういった定量的な評価と定性的な評価の両論でしているところがあります。要するに、事業をたくさんやればこれを達成するというのは当たり前のことですが、そうではなくて、それによってどのような成果が得られたかという方がむしろ大事だと思っています。ですので、私はあったほうが良いと思っています。

【B委員】 これは市役所の中で勝手に設定してもらえば良く、それを審議会や市民に対して目標達成した、という項目ではないと思います。仕事の成果として500人集める目標が100人しか来なかったというのは、企画の能力がなかったということで市役所の担当部署の中で反省すればいい話ですよ。

【石坂企画部長】 そうであれば、持ち帰ります。

【B委員】 同じ定量評価で言うと、「Shall we?」がホームページで見られるなら、市の情報発信や啓発活動で成果が出ているのか、出ていないかというのは、そちらで見た方が根拠があると思います。

【石坂企画部長】 そのとおりですね。それも含めて検討します。

【荏田会長】 この件につきましては、また見直しをお願いしたいと思います。

【E委員】 困難女性支援法が4月に施行されたばかりですが、その対応は相談員みたいな方がいらっしゃるのですか。それとも、市の職員が対応なさるのか。それとも、企画経営課という窓口があってそこへ行けばいいのか教えてください。

【中塚企画経営課副主幹】 困難を抱える女性に関する問題で相談を受け付けるのは、子育て支援課にいる女性相談支援員という職員です。これまで、DVに関する相談もずっと受けており、婦人相談員という名前でしたが、今回この法律が新しくできたことによって女性相談支援員という名前に変わって、引き続きDVをはじめ困難女性の問題についてご相談を受ける、支援をしていくということになります。

【E委員】 資格がおありの方なんですか。

【中塚企画経営課副主幹】 はい。

【E委員】 企画経営課が窓口ですか。

【中塚企画経営課副主幹】 子育て支援課が窓口になります。

【E委員】 そうですか。予約なしで伺ってもいいんですか。

【中塚企画経営課副主幹】 はい。

【E委員】 分かりました。ありがとうございます。

【荏田会長】 そのほか、ありますでしょうか。A委員、お願いいたします。

【A委員】 私もこれに関連しての質問ですが、なぜ子ども家庭課なんでしょうか。子育て支援部の中にある子ども家庭課に女性相談支援員が。

【石坂企画部長】 子育て支援課です。

【A委員】 子ども政策部ではないのですか。

【石坂企画部長】 子ども政策部の子育て支援課というところです。

【A委員】 子ども家庭課とは違うのですか。子育て支援課でもいいですけども。

【中塚企画経営課副主幹】 事業概要の43番に関係機関との連携による早期発見体制の強化、担当部署が子育て支援課、子ども家庭課と書いてある部分です。

【A委員】 DVも、配偶者等の等というのは、配偶者だけというのではなくて、その周りの親密な関係にある人たちも含むということで等がついているのだと思いますが、子育て支援課に相談に行く、そこに相談員がいるという配置の仕方自体が、女性は子どもがなくて当然、子ども前提、子ども政策部の中にある窓口で女性が行かなければいけないという、施策がばらばらでまとまっていないです。例えば、私は子どもがいません。そうすると、私に何かあったとしたときに、なぜ子ども支援課に行かなければいけないのかという矛盾を感じます。窓口がしっかりしていないということが、私は気になって仕方がないです。どうして女性と子どもがいつでも一緒にパッケージになってしまうのでしょうか。そういうところをバージョンアップしていかなければいけないのに付け足しでやるから、DVのときも相談員はずっとそこにいましたという形で、今度は困難女性支援といたら、またそこに支援員を置いて相談をやります、名前が女性相談支援員に変わりました、という付け足しではなく、女性は一人の女性として見て欲しいです。

例えば、二元論的なフレームワークで言いますけれども、子どもがあつての女性ではなくて、子どもがない女性はたくさんいます。しかし、いつもそれがセットになっています。女性といたら妊娠、女性といたら少子化対策みたいな感じの文章が流れてくるんですが、そこそが本当にバイアスではないですか。

【B委員】 MeTooです。

【A委員】 そうですよ。あまりにも当然に子どもとセットとなされているというのが信じられません。

【B委員】 関連しますが、啓発や情報発信は厚労省や東京都の上位組織がやっていますから、自治体は課題解決型の施策をしていくべきだということを以前から言い続けてきました。その中で先ほど言ったニーズを把握するためにリサーチするような、情報が集まるような拠点が必要だという話になっていました。おっしゃられたように、窓口を一本化することによって見えてくる女性の課題というのがあると思うんです。

この計画では、男女平等参画に関しての相談体制はここに入っていますが、女性からの相談というのは、男女平等に関するものだけでなく生活全体に係るもので、三鷹市として市民からの相談体制を充実させるという印象が全然ないんです。だから、男女平等という点の相談だけは受け付けるけれども、それ以外のどこに相談に行ったらいいのか困ったり悩んだりしている人たちの相談を受け付けるのが子育て支援施設（子ども政策部）になってしまっている。そこが、根本的に柱立てが弱いと思います。

【石坂企画部長】 例えば、一定の目的別の組織にはなっているので、ネーミングについてはいろいろとご意見があると思いますが、やはり縦割りの目的別の組織になっているところがありますが、一義的には相談・情報課という窓口があります。そこが窓口になり、それぞれのセクションに案内していくというやり方もあります。そこに一本にまとめるのと、両方あってもいいのではないかという思いもあります。いろいろなところからアプローチして課題解決につなげていくということが大事だと思います。

ただ、その相談のフローが分かりやすく伝わっているのか、どこに相談したらいいのかという面もあると思います。四角四面のチラシを作るのではなくて、もう少し若い人に伝えるためにはどうしたらいいかというような、これは実際に子ども家庭センターでやっていたりすることもあります。相談フローをきちんと出していくというのは大事だと思いますし、B委員のおっしゃるところでいけば、各論には入っているんですよ。

【B委員】 入ってはいるけれども、項目出しはここだけです。

【石坂企画部長】 これを一つ施策として出すのかどうかで悩むところですけども、私たちの整理では、各施策別にそれぞれある方がより分かりやすいかと思います。しかしながら、通底している考え方というのはそのとおりだと思うので、そこは書き方を工夫します。

【B委員】 ほかのところは、支援の中に全て入ってしまっているんですよ。

【A委員】 でも、それでも子ども政策部に回されたら、なぜ私は子どもがいないのに子ども政策部に回されるのか、子どもがいなくても子ども政策部で対応するのが三鷹市で言うのであれば、もっと積極的に意味のある説明が欲しいです。

【B委員】 それは、女性として恥ずかしいですよ。

【A委員】 恥ずかしいですよ。女性として、子どもを持っていないと一人前ではないというメッセージがすごいです。

【B委員】 アンコンシャス・バイアスがばりばりですよ。

【石坂企画部長】 子ども政策部とその辺りは議論しますが、今この場でそれに対して即答はできません。行政的には組織名を変えるというのはなかなか難しいところがあります。ただ、考え方については子ども政策部と議論します。次回までに、お伝えしたいと思います。

【A委員】 やはり、これは人権問題ですから。

【石坂企画部長】 名称がどういう印象を与えるのかということですよ。

【A委員】 そこに含まれているということになってしまうわけです。男性だったら子ども政策部に繋がらないのに、女性は繋がるということは、ここに……。

【中塚企画経営課副主幹】 男性からのDV相談もありまして、そこも子育て支援課に引き継いで相談を受けている状況です。

【A委員】 子どもがいない男性もですか。

【石坂企画部長】 はい。

【A委員】 もうめちゃくちゃです。組織として、ぐちゃぐちゃです。

【石坂企画部長】 所管していることと名称がアンマッチな面があり、それに対して相談する側のメンタリティーが尊重されていないのではないかというご指摘だと思います。

私の立場ではすぐにできるとは言えませんし、できる、できないというのは別問題として、組織の名称としてどうあるべきなのかというのは、もう一度整理したいと思います。

【荏田会長】 では、整理をお願いいたします。

ほかに何かございますか。まだご発言いただいていない方、ご提案でも感想でも結構ですので、ございましたらお願いいたします。

【F委員】 子育て支援課に女性相談支援員が配置されていることを初めて知り、驚きました。三鷹駅前再開発事業の中での多文化共生センター（仮称）の女性センターの機能ですが、私はいち市民として、市民が利用しやすい、分かりやすい窓口としてダイバーシティの役割を果たすような拠点施設を想像しております。そのためには、A委員、B委員が

おっしゃるように、女性センターの検討にあたっては、意識の高い市民の方々の知見や情報が必要だと思います。市の方で検討していただきながら、よりよいものに進めていただければと思います。

また、子育て支援課への女性相談支援員の配置についても、当初の設置基準から社会動向も大きく変わっておりますし、どうすれば様々な困難を抱える女性が利用しやすくなるか考えていただきたいと思います。最後に、本日の資料を見ても、三鷹市役所の職員の方々が、施策としても困難に立っている方々に寄り添って、すごくきめ細やかに考えていただいているということを感じました。ですので、多文化共生センター（仮称）はダイバーシティのような窓口として、本当に支援を必要としている市民の皆さんに、広く使っていただけるようなものになってほしいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【荻田会長】 そのほか、ありますでしょうか。

【C委員】 単純な質問ですが、SUBARU総合スポーツセンターにある一時預かり施設は何課ですか。

【石坂企画部長】 子ども家庭課です。

【C委員】 子育て支援課はどこにあるんですか。

【丸山企画部DX推進担当部長】 本庁舎の4階です。

【C委員】 場所が違うんですね。なるほど。分かりました。

子育て支援課もSUBARU総合スポーツセンターにあるとしたら、すごく小さい子がたくさんいる場でシリアスな相談をすること、いろいろな性の人や、子どもがいる／いない、DVに遭っている人が相談に行くのはあり得ないと思ったんです。子育て支援課は別の場所にあるのであれば、何か工夫ができて、もうちょっと名前も変えられそうな気がしました。子ども家庭課と子育て支援課は名前が似ているけれども、場所も違うししていることも違うんだということが分かりました。

【石坂企画部長】 子育て支援課自体も、例えばDVとか婦人相談だけではなくて、医療費助成や手当の関係も幅広くやっているのです、そう意味では細分化していくのか、大きくくりでやっていくのか、その際の名称の印象だと思いますので、今日いただいたいろいろな意見を持ち帰って、子ども政策部とも議論を進めていきたいと思います。すぐに変えられる話ではないという点をご留意いただきたいと思います。

【荻田会長】 ほかに、いかがでしょうか。

【B委員】 三鷹市の男女平等参画推進を進めるには市民はもちろんですが、事業

者の存在も欠かせないということは何度も申し上げてきました。事業者の方たちに対する目標を提示できないでしょうか。

【石坂企画部長】 B委員から話を受けて、前に1回調べました。

【山際企画経営課主査】 三鷹商工会に確認をしましたが、なかなかそれを目標として市内の各企業に下ろすというのは難しいという話がありました。また、市で企業を所管しているのは生活経済課になりますが、市と商工会の立ち位置は並列であり、市が商工会に何かをしてくださいという立場ではないと確認しました。

【B委員】 商工会を使わなくていいのではないですか。

【石坂企画部長】 そうすると、どういったものがあるかなというところですよ。

【B委員】 だから、そんなに重たいものをいきなりどかんとぶつけるのではなくて、例えばあなたの会社では女性管理職の方は何%ですかとか、世代別の女性の数ですとか、今、三鷹市として女性の就労状況とか女性管理職とか意識の啓発とか、全く何も把握していらっしゃらないでしょう。

【石坂企画部長】 はい。たしか、平成26年ぐらいに、それこそライフ・ワーク・バランスか何かの調査はやりましたよね。それ以来、多分やっていないです。

そこで見えたのは、中小企業で女性を雇用したいけれども、更衣室がスペース的に取れないという課題がありました。三鷹市内の産業は中小企業が多いという特徴があるので、そこに対してどうしたら指標を取れるのか、についてはもう1度話し合いたい。

【B委員】 いきなりではなくて、何か軽いものでいいと思うんです。

【石坂企画部長】 そうなると、どういったサイクルで、どういった項目でやるかというところもきちんとしなければいけないので、そこは…。

【B委員】 そうですよ。そこは検討していただきたいです。

【石坂企画部長】 分かりました。

【荻田会長】 ほかに、よろしいでしょうか。時間が押してきましたので、もしご意見、ご質問ございましたら、後日、事務局のほうへメールでお寄せいただければと思います。よろしく願いいたします。特に、ご意見おっしゃらなかった方や、ご欠席の方も含めてお願いしたいと思います。

全体を通して、何か皆様からございますか。

ないようでしたら、事務局から連絡事項はありますでしょうか。

【中塚企画経営課副主幹】 事務局の中塚です。

今後の進め方について改めてご説明をいたします。次回の第4回の審議会は、事前に日程確認をさせていただきましたが、今月の26日火曜日の開催となります。

本日いただいたご意見やご質問を市の内部で検討の上、修正した素案の案を再度ご確認ください。その後、12月に市議会（総務委員会）にて報告し、年明け1月には計画素案をパブリックコメントに付し、その意見を反映したものを2月の第5回審議会にて諮問させていただき、ご答申をいただきます。最終的に、3月に市議会（総務委員会）に行政報告を行うとともに、計画を策定いたします。皆様、ご多用のところ恐れ入りますが、ご協力のほど何とぞよろしくお願いいたします。

また、今回お配りした概要版の会議メモですが、今後も審議会でのご意見やご質問を的確に反映できるようお示しいたしますので、よろしくお願いいたします。

第3回審議会の会話形式の会議録についても、作成でき次第、皆様にご確認いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

次回は、今月の26日と立て続けの開催となります。皆様、ご多用のところ申し訳ございませんが、ご出席のほどよろしくお願いいたします。

第4回のご出欠につきまして、現時点でご欠席の旨ご連絡をいただいているのはお一人いらっしゃいますけれども、ほかにご都合が悪くなられた方はいらっしゃいますでしょうか。この会場内の皆様は、いかがでしょうか。大丈夫でしょうか。またご都合の変更がありましたら、事務局のほうまでご連絡ください。

それでは、次回もどうぞよろしくお願いいたします。荻田会長にお戻しいたします。

【荻田会長】 以上で全ての議事が終了いたしました。

本日の審議会はこれで閉会といたします。皆様、ご協力いただきどうもありがとうございました。

— 了 —